

Q & A

教えてドクター

子どもがかかりやすい病気についてとりあげ、予防法や治療法などを専門医にたずねます。

File 3 今回の診断名

小児急性中耳炎

耳を痛がる様子が見られるのはもちろん、38℃以上の発熱が3日以上続いたり、鼻汁が多く出たり、あるいは夜泣きや機嫌がわるいなどの症状が見られる場合には「急性中耳炎」が疑われます。子どもにも多く見られる疾患の一つです。

症状の訴えがない子どもの発熱は、急性中耳炎が隠れている可能性が高いです。高熱が続く場合には、早めに専門医を受診し、症状の改善に努めましょう。

教えてくれたドクター

松橋耳鼻咽喉科・
内科クリニック
松吉 秀武 院長

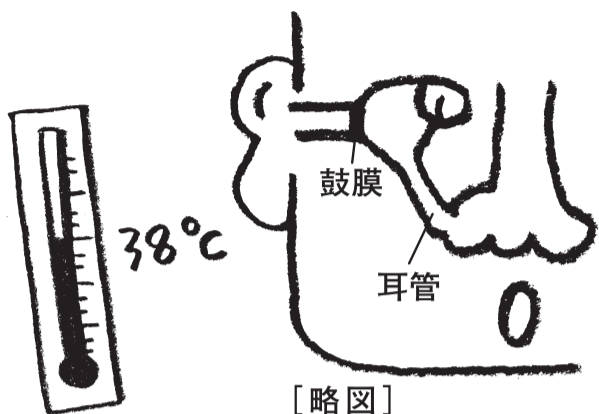
日本耳鼻咽喉科学会専門医
医学博士。「患者さん本位の
丁寧でやさしい医療をめざし
ています」



Q 急性中耳炎とはどんな病気？
何が原因で起こるのですか？

A 本来、無菌である「中耳腔」（耳の入口側の「外耳」と、耳の奥の「内耳」の間にある部分）に細菌が侵入することで起こる、中耳粘膜の化膿性炎症です。そのほとんどは

耳からではなく鼻からの感染で、原因菌の多くを占める肺炎球菌やインフルエンザ菌、ブドウ球菌などが鼻から侵入し、耳と鼻をつなぐ「耳管」を経由して、中耳粘膜の炎症を引き起こします。子どもにも多く見られるのは、大人に比べ、耳管が太く短い（菌が侵入しやすい）ためで、38℃以上の発熱が3日以上続いている子どもにおける急性中耳炎の頻度は、0歳児で約70%、1歳児で約40%と多くなっています。



Q どんな治療をするのですか？
放っておくとどうなるの？

A 鼻からの感染が大半のため、治療には鼻の処置（鼻の洗浄）および抗生剤の投与が有用です。また、症状（化膿の程度）によつては、鼓膜切開を併用した方が早く回復する場合もあります。だいたい1週間ほどで改善に向かいますが、治療が不完全だったり、放っておくと、鼓膜の奥に水が溜まり、聞こえが悪くなる「滲出（しんしゅつ）性中耳炎」に発展するケースも多いので、聴力検査等で確認しながら、しっかりと完治させることが大切です。

急性中耳炎は風邪のウイルスによつても感染するため、これからの季節には特に気をつけたいものです。症状が見られる場合には早めに専門医を受診しましょう。



ドクターに聞いてみたいこと募集

子どもの病気に関することで取り上げてほしいことがある方は、その内容を書いて「Umama教えてドクター」宛にお送り下さい（宛先は14Pに記載）。

町のお医者さん File 2

耳鼻咽喉科・内科

松橋耳鼻咽喉科・
内科クリニック



幅広い診療科目・専門外来に
待ち時間の少ないシステム

同院では、小児耳鼻咽喉科やアレルギー科など、幅広い専門外来と最新設備を備え、一人ひとりに応じた、やさしい医療を提供しています。携帯電話による院内での待ち時間の少ない順番取りシステムのほか、キッズルームや空気清浄除菌脱臭装置の導入など、子どもにもやさしい配慮がいろいろです。



楽しいキッズルームなど、小さな子どももリラックスした気分でのぞめます。

松橋耳鼻咽喉科・
内科クリニック
Matsubase Clinic

宇城市松橋町きらら2-2-15
☎0964(33)4133 みみ よいみみ

診療時間 耳鼻咽喉科
月～金曜 9:00～13:00/14:00～18:00
土 曜 9:00～13:00/14:00～16:00
内科（午前中のみ）月～土曜 9:00～14:00

休診 日曜、祝日 P あり

http://www.matsubase-cl.com/

